

基本目標1 人権が尊重され、多様な生き方を認め合う社会の形成
施策1-2-(1) 学校における男女平等教育の推進
No. 7 区立中学校における出前講座の検討・実施

区立中学校における出前講座の実施について

1 目的

- ・中学生は心身ともに成長の著しい時期であり、この段階で人権意識を育むことは重要である。
- ・本講座では、中学生にとって身近な問題である「デートDV（恋人や交際相手間の暴力）」をテーマに、「暴力とは何か」を考え、暴力を受けてよい人は誰もいないことや、誰もが尊重される存在であること、自分らしく生きることの大切さなどについて理解を深めることを目的とする。

2 実施方法

- ・中学生の発達段階にあわせたワークブックを生徒一人ひとりに配布し、パワーポイントを用いて講義を行った。寸劇やワークショップを取り入れることで、生徒が主体的に考え、気づきを得られる構成とし、暴力を受けない・振るわない・見過ごさない行動につなげられるよう工夫した。

3 実施団体

認定NPO 法人エンパワメントかながわ

4 令和7年度実績

- (1) 銀座中学校（令和7年5月23日（金）5・6時間目、対象：中学1年生149人）
- (2) 晴海西中学校（令和7年7月8日（火）3・4時間目、対象：中学3年生77人）

5 実施結果

- ・参加者アンケートでは、デートDVの言葉やその意味について「初めて知った」「言葉は知っていたが意味は初めて知った」という回答が銀座中学校では76.4%、晴海西中学校では89.4%であった。
- ・感想からは、デートDVへの理解が深まり、暴力の捉え方や他者との関わり方を見直す契機となったことがうかがえた。

【主な感想】

- ・デートDVが、身体的暴力に限らず、言葉や態度によるものも含まれることを知った。
- ・交際相手ができただけの場合には気をつけたいなど、自身の言動を見直すきっかけとなった。
- ・不同意性交罪、撮影罪等の法改正を知り、他者との接し方について改めて考えるようになった。
- ・友人がデートDVに悩んでいる場合には話を聞きたいと感じるなど、身近な行動について意識するようになった。
- ・自分を大切にすることの重要性に気づき、日常生活を振り返る契機となった。
- ・受験期で自分のことで精一杯になりがちな今の時期に、「自分のことばかり考えること」と「自分を大切にすること」は違っていると気づき、「自分を大切にできなければ他人を大切にできない」という認識に至った。